

危機には何らかの予兆があると言われる。必ず危険を知らせる何らかの前触れがある。それは多くの場合、かすかな兆しのようなもので、気づかずに終わってしまうことが多くある。しかし、その兆しをキャッチすることは危機管理の上ではとても重要である。

想定外の事態を避ける方法は、自分の想像力をフルに働かせて、常に最悪の事態を想定して事前に手を打つことである。どのような厳しい状況に直面しようとも、決してうろたえることなく平常心を維持し続ける。これが、リーダーに求められる重要な危機管理の鉄則である。

以上が、危機管理に関して今まで学んできたことのエッセンスである。実際にできているのかというと、それはまた別問題である。また、目標に向かって一目散に突っ走ること大切だが、諦めるべき時には未練を残すことなくきっぱりと諦める。これも危機管理の上ではとても重要な要素である。この決断ができなくてはいけない。とはいうものの未練が残ることが多いのが実際である。

リスクを冒すことに慣れている人はリスクに強いし、リスクにあまり遭遇していない人は困難に遭遇すると腰砕けになる。特に若い頃にどれだけ辛く悲しく、腹立たしい思いを味わったかは、とても重要である。年を取ってくると、若い時にはなかったような困難に遭遇する。これにうまく対応できるかどうかは、若い時に経験した苦労の度合いによって左右されると言っても過言ではない。むしろ、危機にあって平常心を維持できる秘訣は、その一点に尽きるとも言える。その意味では、「可愛い子には旅をさせよ」という先人の教えは、人生の危機管理における奥義でもある。

日頃はいい加減な生活をしていても、いざというときに力を発揮できたらいいと考える人がいる。果たして、そうできるだろうか。日頃の習性そのまま現れるのではなかろうか。だから、小さなことでも常に真剣勝負を心掛け、100%の力で臨むのが理想である。かといって、実際にはなかなかできないのだが。手を抜いてばかりいると、何かの折に脳がそのように反応してしまうかもしれない。

「百戦百敗」という言葉がある。百回負けたとしても、百一回目には必ず勝利するという決意を表す言葉である。オセロなどの場合、それまでボードを占めていた黒が、最後の最後に白に取って替わられるということがある。人生というものは、そうでなくてははいけない。

大切なのは、たとえ負けを喫したとしても「これ以上無理だ」「自分はダメだ」と落ち込んだり腐ったりするのではなく、負けた原因を冷静に分析しながら改善策を講じて、次の戦いに臨むことである。しかも、それを単なる自己満足で終わらせることなく、第三者に認めてもらえるだけの努力をすることである。

これからの若い人たちは、“旅”ができるだろうか。あまりにも可愛すぎて旅をさせない傾向にはないだろうか。辛いこと、悲しいことから遠ざけようとしてはいないだろうか。困難なことを避けようとはしていないだろうか。「苦労」の二文字と一定の距離をとってはいないだろうか。

それでもやっていけるのならばいい。だが、そう甘いものではないだろう。自分の足でしっかりと自分の人生を歩いていく力をつけてあげなければならない。心が常に前を向き、改善する努力を続けることさえできたら、その人は最後の最後に必ず人生の勝利者になれると思う。そういう気構えで人生を生き抜く覚悟が持てたらよい。